

岡山市の成人歯科保健について — 歯周病予防教室の効果 —

河本幸子

岡山市中央保健所

【目的】

平成5年歯科疾患実態調査報告によると、歯肉に何らかの所見のある者の割合は45-54歳で約85%である。また、抜歯の原因調査によると、30歳以降から歯周病による抜歯の割合が増加している。よって、成人の歯科保健活動では、歯周病予防が主な問題となる。

地域住民を対象に、歯科衛生教育を行った後、歯科検診と歯磨き指導を繰り返し3回実施すると、歯肉の状態が改善され、その効果は1年後も維持されていたとの報告がある。さらにこの方法は、35-44歳の年代で効果的であったことも報告されている。

そこで、岡山市では、平成7年度から歯周病予防教室を実施してきた。今回、その効果を評価するために、分析を行った。

【対象および方法】

岡山市内の3小学校のPTA会員を対象とし、市の施設または小学校で教室を開講した。教室の趣旨と内容を学校長と養護教諭に説明し了解を得た後、学校を通じ参加希望者を募った。教室は3回の受講で1シリーズとなっており、初回は歯科医師による講話と歯科検診、歯磨き指導を行った。また、動機づけの一助として、位相差顕微鏡を用い、参加者の歯垢を観察してもらった。2回目は歯科検診と歯磨き指導、3回目は歯科医師または地区担当保健婦によるまとめの講話と歯科検診、歯磨き指導を行った。歯科検診では、歯科医師がDMFとCPITNを診査し、歯磨き指導では、毎回、歯科衛生士が直接

参加者の口腔内を「つまようじ法」で磨いた。1人当たりの指導時間は約15分であった。

【結果】

平成7年度から平成9年度までに、歯周病予防教室を年1回（合計3シリーズ）開講した。3年間の受講者数は総計52名であった。そのうち、初回から3回目まで全て受講した27名（男性1名、女性26名）を分析対象とした。

参加者の平均年齢は 39.7 ± 6.0 歳、平均現在歯数は 28.2 ± 1.8 本、1人平均DMFTは 14.3 ± 5.1 であった。3回のCPITN個人コードの変化をみると、初回にはコード0の者はいなかったが、3回目には4人に増加していた。また、コード3の者は7人から2人に減少していたが、統計学的に有意な差は認めなかった（ χ^2 -test）。

【考察】

3回の歯周病予防教室により、受診者の歯肉のCPITN個人コードは改善される傾向が示されたが、統計学的に有意な差を認めるまでには至らなかった。ただし、各セクスタントのコードでは、上顎左側、下顎前歯部および右側において有意な改善が認められた。岡山大学予防歯科が岡山県下の4市町村で同様の教室を開講した結果によると、参加者全体の分析では個人コードの有意な改善は認められなかったが、35-44歳の年代では効果がみられている。今後は、35-44歳の参加者を多く集めることと、継続して受講しやすいように日程、実施場所等を考慮することが課題である。

藤田幸子、妹尾裕美、中村紀子（岡山市中央保健所）
梶浦靖二（島根県健康福祉部健康対策課）
渡邊達夫（岡山大学歯学部予防歯科学講座）